

出張報告書

令和元年 6月 28日

釧路市議会議長 松 永 征 明 様

会 派 名 市民連合議員団
代表者名 佐 藤 勝 秋



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受 命 者	佐藤 勝秋・酒巻 勝美・松尾 和仁・岡田 遼・板谷 昌慶
出 張 先	別海町
期 間	令和元年 5月31日 ~ 令和元年 6月 1日 (2日間)
用 務	民主議員ネット・釧根 春期研修会
調査 (研修) 結果等の概要	1. 場 所 別海町中春別307-2 2. 参 加 5名 <input type="checkbox"/> 研修内容 1. 東京理科大とのAI と lot を活用した個体管理システム 2. バイオガス発電による経営の安定化と資源活用 3. 搾乳ロボット・哺乳ロボット視察 有限会社 中山農場 代表取締役 中山 勝志 氏
備 考	

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書 (原本) とともに会派で保管すること。
2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

民主議員ネット・釧根 総会・研修会 概要報告

市民連合議員団
(会長 佐藤 勝秋)

釧根管内の地方議員を中心に構成されている「民主議員ネット・釧根」の総会・研修会に参加しましたので、概要について報告致します。

- 搾乳ロボット・哺乳ロボット視察
- 東京理科大学との AI と Lot を活用した固体管理システム
- バイオガス発電による経営の安定化と資源活用

視察協力：有限会社 中山農場（別海町中春別 307-2）
代表取締役 中山 勝志 氏

<報告担当：板谷昌慶>

2019年（令和元年）5月31日（金）に民主議員ネット・釧根が開催され、研修会として 有限会社 中山農場様にご協力を頂き、施設の案内・装備の説明を中心にお話を頂きました。

中山農場が別海の大地で牛を飼い始めたのは、戦後間もない頃。3頭の牛から飼い始めました。平成8年には地域に先駆けて家族経営から法人経営へと転換。時代や世界を見据え早くから規模拡大や機械化、集約化を進めてきました。現在300haの敷地で1000頭もの牛を育てています。

中山農場では、スマート酪農（牛のストレスフリー化）を展開しているが、ス



スマート農場、牛のストレスフリー化に取り組む中山社長

スマート酪農には高いポテンシャルがある。背景は近年のICTの目覚ましい進展である。知的推論能力の高いAI、様々な対象物体の有り様を正確・迅速に捉えるセンサー、そしてモノ（機器）をインターネットにつなぐIoTの発達である。これにより搾乳ロボットや個体別自動哺乳ロボットカーフレールの導入により、劇的に環境の変化が現れた。スマート酪農は、投資額は相



哺乳ロボット担当者さんの熱心な説明

当に大きいのが、最も労働時間を要する搾乳作業から解放される省力化・軽労化効果、個体能力を引き出して生産性が改善されることで生まれる経済効果、経営にも家族生活にも生まれるゆとり効果が認められた。しかし、効果を顕在化させるためには、常に搾乳トラブル時に備えた初動体制、搾乳ロボットに適号した牛群構成、搾乳ロボットから提供する情報を最大限に利用し乳牛にストレスをかけない（家畜福祉を高め

る）飼育環境によって個体能力を引き出し、健康を維持する発想からの個体管理を徹底などが明らかになった。今後の小労働力時代の確かな1つの経営モデルとして評価できる。

「酪農と食文化のスペシャリストを育てる」と中山社長は話します。現在、日本の酪農経営では分業化が一般的であるが中山農場では牧草づくりから飼料設計、繁殖、搾乳までを自社内で一貫して行っています。牛のストレスを取り除き、ちょっとした変化にも気づいて応えること。現場のスタッフが誇りを持って働ける場所をつくること。牛にも人にも健康的な環境を整え、生産性と品質を高めています。誰一人かけることなくチームとして、そして生活を前向きに楽しむ気持ちを持ち合わせたスタッフで中山農場は活気があふれていました。

農業の在り方に変化の兆しを実感しました。徐々に広がりを見せるスマート農業ですが、地域間での取り組みの差や投資額など、いまだ数多くの普及を阻む課題があるのが現状です。

技術の進歩とそれを受け入れる農業基盤の確立により、課題の改善と新たな担い手の増強がかない、釧路の農業が元気になるために、この経験を生かしていきたいと考えております。



搾乳ロボットにての搾乳作業